

犬山まつり

犬山まつりは、ユネスコの無形文化遺産のリストにある 33 の日本のお祭りの 1 つです。1635 年、今は犬山城の足元にある針綱神社に祀られている、日本の神道の神へ平和と保護を祈る方法として始まりました。犬山まつりは 4 月の最初の週末に開催され、何世紀にもわたって同じ伝統的な雰囲気を提供してきました。

主な魅力は、高さ 8 メートル以上の精巧に装飾された 13 の車山の巡行です。城下町の狭い通りをナビゲートするには、ひと、筋肉、技術のチームワークが必要です。日中は、操り人形（からくり人形）が車山の最上階にあり、横笛と太鼓の音楽に合わせて演技します。日が沈むと、車山は何百ものろうそくに照らされた提灯で再装飾され、再び通りを巡行します。クライマックスには車山の回転（ドンデン）が行われます。これには、5 トンを超える重量を持ち上げて旋回させるために男性チームが必要です。祭りは桜の季節に開催され、美しさの要素が加わります。

お祭りは長年にわたって進化しており、当初は儀式的に装飾された馬と茶葉摘みの行列が関係していました。江戸時代（1603～1867 年）に、町代は剣を着用し、祭りの費用を税金として徴収することが許可されました。あらゆる年齢の住人は、毎年、神々をなだめ、コミュニティを育み、伝統を伝え、訪問者を歓迎するために、イベントの準備を 1 年の生活の中で行なっています。